



悠久会 埼玉支部 会報

新潟大学 工学部 同窓会

(第18号)

発行：悠久会 埼玉支部

発行者：支部長 田島富二夫 (子43)

編集者：副支部長 鯨井 和幸 (電47)

発行日：平成28年5月4日

悠久会 埼玉支部 総会(第22回)のご案内

【大学のミッション再定義】

埼玉支部長 田島富二夫 (子43)

1995年10月に悠久会埼玉支部が発足してから21年目を迎えた。平成35年には悠久会発足100年を迎える。又1947年に新制大学が発足して来年で70年になる。

しかし大学を巡る状況は厳しさを増している。とりわけ2004年に国立大学が独立法人化になって以来、大学運営交付金が2015年迄の11年間に11億円減額となった。今後も継続して削減の方向である。

大学の使命は国民の生活を豊かにし、安全で安心、且つ快適な人間生活が送れるようにする研究活動を行うことと、より良い社会づくりに貢献する学生を育てることだ。

ミッションの再定義で「大学の機能強化」が謳われているが、国の交付金の減額の結果、新潟大学でも教職員の定員を減らし、学部・学科を改変して出費を抑え対応しているという。ミッション再定義の内容に疑問が生ずる。科学の分野での大学の果たす役割は極めて大きい。大学の運営に汲々とするのではなく、学生の教育と併せて科学の発展と進歩に専念出来る大学の環境作りが必要だ。

同窓生一人ひとりが出来る事を行い、知恵を出し合って誇りに思える新潟大学として発展して行く事を期待したいところです。

記

1、日時 平成28年6月4日(土) 11:00~16:00

2、会場 東晶大飯店

住所 さいたま市大宮区宮町2-28 あじせんビル3F

電話 048-644-0881

交通 大宮駅(新幹線・高崎線・宇都宮線・埼京線等)
東口より徒歩5分

3、式次第

第I部 総会 11:00~12:45

母校・本部近況紹介 他

講演会 (12:00~12:45)

「震災と鉄道技術」

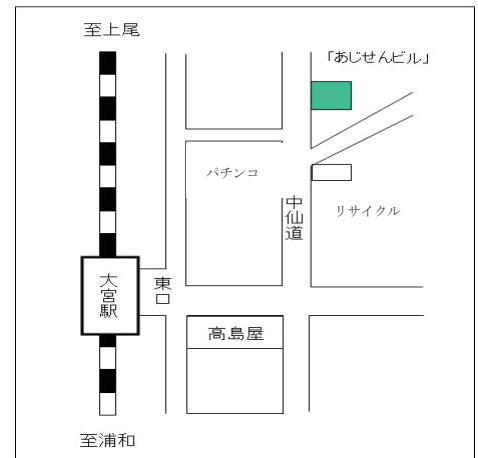
… 新潟大学工学部建設学科教授

阿部 和久 氏

第II部 懇親会 13:00~16:00

(… 二次会、あります。)

4、会費 8,000円 (但し、学部卒業後5年未満の方は、ご招待とさせていただきます。)



尚、返信用葉書にはメールアドレスの欄がありますが、勤務先/ご自宅とも支部からのご案内を差上げて支障の無いアドレスをお書きください。(両方でもかまいません)

ご返信の宛先は、埼玉支部・事務局 倉品 俊裕 (子42) 宛てとなります。

支部年会費 納入のお願い

埼玉支部の年会費は2,000円です。支部総会案内や会報の作成・印刷他、連絡費用等の活動資金です。同封の郵便振替用紙をご利用ください(通常払込料金無料)。健全な支部活動を継続するためにも、支部会員の証としてぜひご納入いただきますようお願いいたします。

工学部の近況について ～大変革時代の到来の中で～

新潟大学工学部長

田邊 裕治（院機 56）



拝啓、新緑の候、工学部同窓会「悠久会」埼玉支部の諸兄諸姉の皆様方には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃、工学部の教育研究に対しまして、ご理解ならびに種々のご支援を頂いておりますこと、衷心よりお礼申し上げます。誠にありがとうございます。

この度、大学や工学部を巡る状況についてお話をする機会を頂きましたので、ここにその概要を簡単に述べさせて頂ければと思います。

少子高齢化が益々進む中、また地域の疲弊が顕在化する中で、国立大学が果たすべき役割が一段と増して厳しく問われています。昨年度（平成 27 年度）は第 2 期中期計画・中期目標期間の最終年度、今年度（平成 28 年度）は第 3 期中期計画・中期目標期間の初年度であり、大学を巡る激動、「大変革時代」の到来です。三年前（平成 25 年度）に国立大学のミッションの再定義が公表され、工学分野では研究の質と量が国際的水準にあるかどうかという観点で大学が三つのグループに分けられたばかりと思ったら、次に（平成 27 年度）三類型に分類されて評価され、評価結果によって運営費交付金の額が決まるとの発表がありました。国立大学に対する外圧は年々強まるばかりです。新潟大学はその国立大学三類型の一つ「地域貢献と特定分野の教育研究を推進する大学」に手を挙げ、改革の道を歩み始めました。最初の評価では、学士課程教育改革は「優」、研究と地域貢献は各々「可」、総合評価は「良」という評点が付され、今年度の運営費交付金の額は昨年度に比べて微増という結果でした。しかしながら、財政の逼迫という状況には変わりなく、その改善を目指した教職員の人事の凍結は閉塞感を漂わせております。このような中で、工学部は明るい未来を目指して、科学技術イノベーション人材の育成を謳い、平成 29 年 4 月に工学部工学科一学科体制への改組を決定しました。一学科は 9 つの主専攻プログラムから構成され、工学系が 7 プログラム、分野（文理）融合型が 2 プログラムとなっています。情報分野の再編・強化、建築と社会基盤工学の分離、文理融合プログラムの新設（「人間支援感性科学」：芸術・スポーツ・情報・人間医工学の融合、「協創経営」：経済・経営・工学の融合）がその特徴です。学部改組については理、農学部も一学科体制への改組を決定し、自然系 3 学部は協働して歩を進めているところです。この連休期間中に文科省へ改組申請書類が提出されることになっています。大学も新たな「創生学部」創設を決めました。円滑な一学科体制への移行のため、細々とした諸課題を解決しながら、粛々とその準備を今年度は進めることとなります。改組に伴い学生定員も 50 名増えて 530 名となり、一年次は工学科共通教育を実施、二年次から各プログラムに分かれて段階的に専門教育を実施していきます。

大学の使命の三本柱は教育、研究、社会貢献と考えます。大学は「学問の府である」というのが原点であり、教育、研究、社会貢献がバランス良く連携して「最終的に知恵を創造するところ」でなければならないと強く思っております。

工学部は一年後に生まれ変わりますが、今後も、ご支援、ご助言、忌憚の無いご意見を頂ければ幸いに存じます。何卒、宜しくお願い申し上げます。

熊本地震のエコノミー症候群問題で 被災地を駆け回る

新潟大学医学部

榛沢 和彦 先生



「28年熊本地震」はこれまで経験をしたことのない大きな規模、そして長い期間継続している地震だ。

その結果、多くの被災者はいつ大きな余震が来るかと言う不安に襲われ、更には建物の中に避難する事に不安を感じ、避難所があるにも関わらず路上や乗用車の中で避難生活をするという状況が生まれた。そして特に車中避難している人達の間でエコノミー症候群を発症し死亡するという事態が生じている。4月24日現在このエコノミー症候群を含む震災関連死で死亡した人は12人となる。災害が発生した時に震災関連死を最小にする事は大きな課題だ。

榛沢和彦先生(血管外科)は中越地震以来エコノミー症候群の調査研究を重ねて来ており、警鐘をならしてきた。そして今回の熊本地震が起きるとすぐに熊本へ駆けつけ「緊急事態だ」と訴え、車で避難生活をする全ての被災者に弾性ストッキングを配る事を国が率先して取り組むべきだと提唱をした。

榛沢和彦先生(医学博士)は89年新潟大学医学部を卒業、新潟大学災害・復興科学研究所研究員や獨協医科大学神経内科非常勤講師等を経て、98年新潟大学医学部第二外科助手、2012年新潟大学医歯学総合病院心臓血管外科講師となった。

2004年の新潟県中越地震や2011年の東日本大震災などで被災者の避難生活と血栓症の関係の実態調査を重ね、肺塞栓症(いわゆるエコノミー症候群)の危険性と予防を訴え続けてきた先生です。

熊本地震では数千人規模の人達が車中泊を余儀なくされ死者が出るという深刻な事態を目の当たりにして緊急な手立てを3つ提唱した。それは車中泊を解消するか、県外避難をさせるか、もしくは全員に弾性ストッキングを配ることだ、それをやるしかないと訴えた。

弾性ストッキングは足に適度な圧力を加えて余分の血液がたまり血栓が出来るのを防ぎ、脚の深部にある静脈への流れを助けるものだと言っている。(2016年4月20日しんぶん赤旗記事より)

地球全体が活動期に入っているとされており、頻発する地震等の災害が多発している今日において、私達の同窓の先生がこのように被災地を駆け回って被災者の震災関連死を防ごうとしていることは大変感動的であり同窓生として誇りに思うところである。

(榛沢先生の活動は新聞等で報じられました。本文はそれらを基に田島支部長が文章化したものです。)

「埼玉支部の思い出」

前 埼玉支部 副支部長

的場義夫（応化 40）

昨年の11月に長年にわたり住み慣れた「埼玉」を離れて「北の大地・札幌」に住まいを変えました。企業内に浸かっている間は同窓会など全く念頭に無かった訳ですが、応化 40 卒のクラスメイトの田中踏基さん(元埼玉支部長・現著述業)からTelがあって、埼玉支部で全国総会を開催するので在京の仲間で手伝って・・・が始まりだったと記憶しています。

思い出深い事を列記しますと

- * 2001年「新世紀・新都心・埼玉総会」、2010年「ふれあい・埼玉総会」と2度の全国総会に係われたこと。2010年総会は微力ながら実行委員長を引き受けましたが、計画立案から開催の実施まで支部役員の皆さんの滅私奉公？（ボランティア？）のおかげで成功裏に実施できたことに感謝です。
特に2001年総会時に鯨井さん（電子 47）が作られてアーカイブしていた「実行マニュアル」は助かりました。
- * 役員会（実は飲み会？）が日常の息抜きとして最高でした。企業内と異なり、上下関係、利害関係、価値観の違いなどは関係のない平等の個人の集い・・・これが同窓会の本質でしょう。
- * キャラの濃い人材が多い。役者、作家（著述業）、シンガーソングライター 等々 楽しませていただきました。
- * 「ふれあいウォーキング」では、足が攣って迷惑を掛けたこともありましたが楽しいものでした。50回を越えるとは正に「継続は力なり」の見本でしょう。出井幹事さん（機械 52）は立案でご苦労様です。埼玉には、まだまだ行く所が沢山あります。
- * 全国総会で各地に行った折には、観光は自前で計画して「神社仏閣・古墳・遺跡など」の普段はなかなか行けない所に行きました。同窓会様々です。

埼玉支部の今後に期待することとしては・・・

三代の支部長(故江森、元田中、現田島)が綿々と引き続けてきた「楽しくなければ同窓会ではない」の合言葉の基に全国の支部の見本となってください。

新陳代謝の無い組織・団体は先細りしかねません。埼玉支部も新しい血(特に平成年代の卒業)が少ないと見ています。どうすればいいのか・・・助言はありませんが・・・頑張ってください。

平成 33 年の次回の埼玉・全国総会には万難を排しても参加したいと思っています。それにはなりよりも「健康第一」が優先されます。皆さんも体には気を使って下さい。

なんで札幌に引っ越すの？とよく聞かれましたが・・・

この世に生を受けてから今回で引っ越しが 17 回目です。埼玉には半世紀ほど転々と住み替えましたが長すぎた？ 飽きた？ 刺激が無い？ ... こじつければ何とでも・・・

札幌は人口 200 万人の大都会です。何でもあります。マンションからはテレビ塔や大通公園が見えます。地下街が発達して降雪も苦になりません。・・・札幌にお越しの際にはお声をかけてください。

脳細胞の劣化防止に新しい知識を擦りこみ始めています。

「古文書の判読」「論語の素読」「C 言語の習得」・・・等々、欲張り過ぎ？ 3D プリンターも欲しいな・・・

また会える時を楽しみにしています。

おわり

「ふれあい・さいたまウォーキング」活動報告

埼玉支部 副支部長

出井 道夫 (機52)

埼玉支部の恒例行事「ふれあい・さいたまウォーキング」の活動を報告致します。
歩いて訪ねる埼玉再発見の旅です。平成27年度は、4回のウォーキングを行いました。

第48回 多摩湖畔から武蔵野の自然をめぐる旅

期日:平成27年6月20日

多摩湖(村山貯水池)と、その周辺の武蔵野の森(自然公園)を歩き、最後に菖蒲まつりが行われている、北山公園(東村山)を訪ねました。



多摩湖

第49回 仙元山と和紙の里(小川町)を訪ねる旅

期日:平成27年9月26日

小川町を一望できる仙元山に登り、その後に埼玉伝統工芸館を訪ねました。手漉き和紙の「細川紙」は、国の重要無形文化財に指定されています。



仙元山 山頂

第50回 日本百名山 筑波山を訪ねる旅

期日:平成27年11月28日

50回を迎えた記念に、埼玉を離れて日本百名山の筑波山に登りました。ケーブルカーとロープウェイが利用できるのも、手軽に山頂まで行けました。



筑波山神社参道

第51回 大宮公園の桜を訪ねる旅(花見の会)

期日:平成28年4月2日

人文・法・経済学部同窓会 首都圏支部の「青松ウォーキング」の皆さんとの共催で、花見を行いました。満開の桜の下での一杯は、格別でした。



大宮公園

埼玉支部ではこれからも季節毎に、「ふれあいウォーキング」を計画します。興味のある方・参加希望される方には、案内をEメールでお送りしますので、お気軽に下記アドレスにご連絡下さい。県外支部や他学部からの参加も大歓迎です。同窓生と気楽に歩いてみませんか。
連絡先:出井(機52):kwgid@pop.kcv-net.ne.jp

***** 支部・編集子からのお知らせ *****

※ 今年の全国総会は、千葉です。

『空と海 羽ばたく千葉総会』

… 6月25日(土)～26日(日) 千葉市

講演会及び総会・懇親会とも カンジオホテルズ内 TKP ガーデンシティー千葉

詳しくは、悠久会時報・第129号をご覧ください。

※ 来年以降の全国総会開催地は、以下の予定です。

- ・平成29年 栃木
- ・平成30年 東京
- ・平成31年 群馬
- ・平成32年 長野
- ・平成33年 埼玉
- ・平成34年 大阪/兵庫

※ “悠久会” 100周年記念行事の取組みについて 埼玉支部 副支部長 大友 眞 (機52)

最近、「悠久会100周年・・・」というフレーズを耳にする機会が増えて来ているかと思います。工学部同窓会が出来てから丁度100年となるのが、平成35年(西暦2023年)です。100周年は大きな節目として何か記念となる行事を行おう、ということが昨年の全国総会で決議されたと伺っております。その準備として組織されたのが「新潟大学工学部同窓会100周年記念行事実施検討委員会」です。

検討委員会は18名のメンバーで構成され、委員には理事長(1)、副理事長(3)、監事(2)、常任理事(4)、学内理事(3、先生方)と支部代表(5)を含んでいます。支部代表としては、新潟県内3支部から各1名、関東圏・首都圏から2名ということで赤羽群馬支部長と小生(大友)が参加しております。委員長には本合理事長が、副委員長には相馬副理事長(神奈川支部長)が就く予定です。

これまで2回会合を開き、記念行事の中身(式典・祝賀会・記念事業)をどうのものにするか、また、開催日・開催地と寄付およびその用途について等論議して来ました。これ等の基本的な部分を検討委員会で論議し、次の実行委員会へとバトンタッチして行きます。

※ 昨年度(第21回)埼玉支部総会 集合写真です。



6月4日(土) AM11:00 「東晶大飯店」で、お待ちしております。